

「県立高等学校編成整備計画（案）」に対するご意見及びご意見に対する考え方

No.	該当箇所	ご意見	理由	ご意見に対する考え方
1	P.1 10行目 P.2 7、22行目 P.14 17、38行目 P.15 23行目	<p>本県においても、「Ⅱ県立高等学校編成整備の現状及び課題等」に示されるように、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、豊かな人生を切り拓いていく力」は、教育改革の大きな目標であるが、教育現場においてはその実践モデルとなるような授業実践を見たり、研修したりする機会が少ないこともあり、教員の理解が深まらず、なかなか改善できていないように感じられる。</p> <p>また、「グローバルな教育先進県づくり」に関しては、目標が漠然としており、明確な手立てや、先進的といえるような取り組みは示されていない。本編成整備計画の目標としては大変評価できるのだが、上記の課題解決や目標達成をめざすにあたり、次の提案を示したい。</p> <p>提案：本県の教育課題解決や目標達成のために、公立学校においても、国際バカロレア教育の認定校を設置する必要がある。</p> <p>以上を次期編成整備計画に取り入れて頂きたい。</p>	<p>①文部科学省は我が国における国際バカロレア（以下、IB）の理念を高評価し、国内に約100校の認定校を設置する計画を実施中である（H29年時）</p> <p>②新学習指導要領においても「探究」やものごとを「概念的にとらえる」といったワードは、IB教育のエッセンスを取り入れていると感じられる。</p> <p>③IB教育のコアとなっている「知の理論（以下、TOK）」は左記の目標達成と、今後の我が県を担うグローバルな視点をもつ人材育成に必要であると考えます。</p> <p>④思考力などのコンピテンシーの部分は学力調査などで測ることが困難である部分であり、その差に気づきにくい。コンピテンシーの部分で他府県と差が出ることは、本県にとっても大きな不利益となるであろう。</p> <p>⑤15頁23行の「国際的に活躍できる人材の育成を図る教育プログラム」のひとつにIB教育があげられる。</p> <p>⑥IBの授業料等は高額で、職員にも一定割合IB研修を受講した教師の在籍がIB認定校となるのに必要など、超えなければならぬ壁も高いが、本県の教員にもIB教育の理念は大いに参考となる。「グローバルな教育先進県」を本気でめざすなら、検討の価値は充分にあると考えられる。</p> <p>⑦上記にあるとおり、文部科学省が国内に認定校を設置するのは、設置校の周辺校にもその特徴を参考にする機会をつくるためであり、公立高校では教職員の異動により、そのエッセンスを認定校以外においても広めることが可能となる。</p> <p>⑧その他、個人的にIBの研修を受講し、TOKについても学んだことがある。日ごろの実践でもその理論は大変参考となった。また、</p>	<p>ご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>

No.	該当箇所	ご意見	理由	ご意見に対する考え方
			1日認定校を見学し、在学生へのインタビューを行ったが、クリティカルにものごとをとらえる様子など、日本の教育がある意味苦手としている分野に差があるように肌で感じるがあった。 以上が、提案の理由となる。	
2	P.3 1行目	普通高校(普通教育を主とする高校)は全日制38校(内定時制併設1校、通信制併設1校)、定時制1校(通信制併設)の計39校、専門高校(職業に関する専門教育を主とする高校)は全日制20校(内定時制併設5校)となっています。	学校数が間違っているのでは、訂正を希望します。	ご指摘のとおり修正いたします。
3	P.7 8行目	「展編入学」は「転編入学」が正しい。		ご指摘のとおり修正いたします。
4	P.7 図7	率のH24とH25の間は点線にした方がよい。	H25から通信制を含むものに変更になったから、統計的な連続性がないことをわかりやすく示すため。	ご意見は、今後の参考とさせていただきます。
5	P.7~8	中途退学者、不登校者、休学者の状況・推移だけでなく、転学者(特に全日制高等学校からの転出者)の状況・推移も示して下さい。不登校者や休学者の多くが、その後転学しているということはないですか。また、「就学支援センター」へ異動した生徒の状況・推移・進路はどうなっているのか示して下さい。「就学支援センター」の設置が県の方策として適切なものとなっているのか、その見解も示されるべきです。	退学者数が減少しているかのような推移を示していますが、昨今の状況として、県立の定時制や通信制のみならず、私立の通信制が増えたこともあり、進路変更の手段に退学ではなく転学を選択する、あるいは学校側から転学を勧められることが多々あると考えられます。特に「就学支援センター」については、そこへ異動した生徒が、その後復学したのか除籍となったのか示されなければ、退学者数の推移が状況を適切に表しているものとは考え難いです。	本計画における高校の実態等については、大学等進学者数、中途退学者数、不登校者数、休学者数の状況にて記載しており、原文のとおりといたします。 また、高等学校生徒就学支援センターの状況等については、泊高等学校HPへの掲載を予定しております。
6	P.10 5~6行目	「中学生支援センター(仮称)の設置」の実施状況を示して下さい。中学生の学び直しの場として設置を計画したのではないのでしょうか。	説明がありません。	「中学生支援センター(仮称)」の実施状況については、P.10に記載しております。
7	P.12 45行目	[出典:富山県教育委員会「令和3年度全国公立高等学校第1学年定員等状況」]に沖縄県のデータが掲載されているのだろうか(文書は富山県教育委員会のホームページでは見つ		ご意見を踏まえ、出典について修正いたします。

No.	該当箇所	ご意見	理由	ご意見に対する考え方
		からなかった)。出典に掲載されているのは全国のデータだけではないのか。		
8	P.14 11行目	「在籍する生徒の多様な実情・ニーズ」を「入学を希望する生徒の多様な実情・ニーズ」と改めるべきである。	入学前に「教師と学校のニーズ」が優先され、定員内の不合格者を生み出し、県民が県立高校から排除されているから。入学者も、入学時点で「教師と学校のニーズ」が優先された教育課程のまま、不登校と高校中退が大量に生み出されているから。	この部分は、県立高等学校の現状について記載しており、原文のとおりといたします。
9	P.14 38行目	「将来本県を牽引する高い志を持ったグローバルに活躍できる人材の育成」の記述は、「普通科」「専門学科」「総合学科」にはない。このような差別的な人間観・教育観が、県立高校の生徒を苦しめている。削除するか、すべての学科で書くかにしてほしい。		この部分は、中高一貫教育校の設置基本方針に基づく記載であり、原文のとおりといたします。
10	P.14 38行目 その他(計6カ所)	「牽」は常用漢字外なので、公文書ではフリガナ付きもしくはひらがな書きが適当である。	「公用文作成の考え方(文化審議会建議)」解説 p.10 参照	常用漢字外ではありますが、本県においては各種計画等において使用していることから、原文のとおりといたします。
11	P.15 5、7行目 その他(計41カ所)	県立高校の保護者として強く意見します。わが子は「人材」ではない。人格である。ましてや県の発展の「要素」ではない。教育法規にも学習指導要領にもない「人材」という語で、他人の子どもを呼ぶのをやめてほしい。すべての高校生を人格として尊重し、その「人格の完成を目指し」(教育基本法第1条)てほしい。沖縄21世紀ビジョン・沖縄教育振興基本計画の今年度(2022年度)改訂の際に、「人材」「人材の育成」ということばをなくせば、県立高等学校編成整備計画からもなくせるはずである。	東京新聞 2021年9月17日朝刊に高校2年生の怒りの投稿が掲載され、その後も反響の記事が続いている。一部を引用する。「今の社会はこんな「人材」を求めています」なんて言葉を聞く。そんな時、一抹の怒りを感じる。「人材」。よく使われる言葉だが、資本家が労働者を使って当たり前なのだ、といったニュアンスが含まれているように思えるからだ。高校生のみずみずしい感性に学ぶべきだ。そして教育者を含む大人は、高校生が怒りを感じるような表現を慎むべきだ。	ご意見は、今後の参考とさせていただきます。
12	P.18 26行目	「高等学校においては、障害のある生徒とない生徒の交流及び共同学習が推進」とあるが、少なくともわが子は県立高校で「交流及び共同学習」を経験していない。障害者である生徒と障害者でない生徒が共に学ぶインクルーシブ教育を行えば、「交流及び共同学習」は必要なくなる。定員が空いている県立高校は、		県立高等学校の入学者選抜は、適正に実施されており、原文のとおりといたします。

No.	該当箇所	ご意見	理由	ご意見に対する考え方
		障害の有無に関係なく、学力の高低に関係なく、受験するすべての県民を入学させなければならない。		
13	P.19 1行目	<p>3 多様な学びの享受に向けた学校づくりは、(1)背景は高校全般について書かれている。しかし、(2)本県の現状では定時制高校だけに限定され、全日制高校については書かれていない。</p> <p>(3)今後の方向性は全日制的単位制や総合学科で行っているキャリアアップコースなどの設置等を広めていく必要があります。</p>	<p>高校入試の募集では推薦入試0名、第1募集では全日制に殺到し、定時制には2次募集で出願してくる。</p> <p>中学からの受験生は全日制を希望していると考えられる。</p> <p>多様な学びの享受に向けた学校づくりは、全日制での対応も考えるべきだと思う。</p>	<p>全日制での取組については、第2章の実施計画において記載しております。</p>
14	P.19 7行目 その他(計8カ所)	「繫」は常用漢字外なので、公文書ではひらがな書きが適当である。	「公用文作成の考え方(文化審議会建議)」解説p.9～10参照	<p>常用漢字外ではありますが、本県においては各種計画等において使用していることから、原文のとおりといたします。</p>
15	P.19 46～47行目	<p>他県において「学び直しを主体とする学校やコースの設置」が進んでいる状況を「ニーズの高まり」と見るのは、因果関係の判断として適切なのか疑問です。少子化で定員割れとなる学校が多いため、低学力の生徒を受け入れる方策として、既設校のいくつかを各自自治体が「学び直し」の拠点校として指定したとも受け取れます。しかも、低学力の生徒の多くが、学習意欲があって高校進学を希望しているとは言えません。「学び直し」を求めているのか明確でない者が、定員割れを理由に入学となり、特に本県のように、履修していれば(必要な出席日数・出席時数さえ満たしていれば)、未修得であっても(単位保留科目をいくら抱えていても)進級できる状況とあれば、高校の基礎・基本どころか、「学び直し」の学習さえも身につかないまま3年生となることも想像に難くありません。県内で「学び直し」の対象校の絞り込みが難航するのも十分うなずけます。県が「学び直し」を進めたいのであれば、高校入試(学習意欲の有無をどう判断するか)および進級のあり方(沖縄県立高等学校管理規則 第38条「原級留置」規定)を見直す</p>	<p>38頁によると、「県立高校に期待する特色」として、「学び直しができる教育」は中高生が2%台、保護者が4%台となっており、県内においては「学び直し」のニーズが高いとは言えないように思えます(他県においても同様ではないかと推察します)。しかも、そうであるにもかかわらず、本県が「既設校」を学び直しの学校として設置しようとしていることに整合性は見て取れません。</p>	<p>ご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>

No.	該当箇所	ご意見	理由	ご意見に対する考え方
		<p>必要があると考えます。さらには、習熟度または少人数の授業展開を国語・数学・英語以外の教科にも広げなければ、低学力の生徒が多く入学する学校にとっては、学習指導は今後も困難なものになると考えられます。</p>		
16	P. 24	<p>今回の県立高等学校編成整備計画の24ページへ追加をしていただきたい。 「市町村との連携」について追加</p>	<p>県としての役割も重要だが、市町村においても総合計画などにおいて、市町村の目指すべき姿が示されている。 時代に合った学校の編成において、市町村の基本施策とも連携していくことで、より効果的な人材育成が図れるものとする。 そこで、中高一貫校のみの市町村との連携に留まらず、県立高校全体の再編について市町村（特に当該市町村）と連携した取り組みを求めたい。</p>	ご意見を参考に、今後検討いたします。
17	P. 26 12行目 P. 27 11行目	<p>「那覇商業高等学校定時制課程は泊高等学校に統合し」とあるが、那覇商業高等学校定時制課程は夜間部であり、図 14：泊高等学校改編後のイメージでは、定時制の学習時間帯 13:40～20:30 となっている。現在の夜間部の生徒はアルバイトをしているので 17:00 頃登校している。 那覇商業高等学校定時制課程と泊高等学校の統合は現在の夜間部への統合がいい。 現在、定時制は午前部、夜間部の2つあるが、午前部にしか来れない生徒や夜間しか来れない生徒がいる。このような生徒たちをどうするかということが大事だと思う。同じ境遇の生徒がいるから通えるという生徒がたくさんいる。</p>	定時制の基幹校としての統合はいいと思う。	<p>泊高校の改編については、単位制高校の特色を活かし、生徒が自分の学習スタイルに合わせて時間割を作成できるなど、多様な学びへの対応を図ることとしております。 学習時間帯については、多様な学びに対応できるよう、生徒の実情を踏まえながら検討してまいります。</p>
18	P. 27 1行目	<p>現在北部地域には、公立の通信制高等学校がないので、北部地域にも公立の通信制高等学校を設置検討していただきたいと思えます。 新設高校を一からおこすというのが大変であれば、石垣、宮古島にあるような、泊校のサポート校を、北部地域に設置検討頂きたい。</p>	<p>泊高には 700 人強、宜野湾校には 200 人程の生徒が在籍していますが、泊高校は 15 人、宜野湾高校は 5 人、北部地域から通っています。今後も増えることが予想されます（不登校生徒の増加により）。また、スクーリング（対面授業）強化が検討されている為、学校に通うため、保護者の送迎負担が増える事が予想さ</p>	<p>通信制課程については、平成 23 年度に宜野湾高等学校に設置し、泊高等学校通信制課程の過密化解消及び中北部地区からの通学時間の短縮等を図ってきたところであり、今後、状況を注視していきたいと考えております。</p>

No.	該当箇所	ご意見	理由	ご意見に対する考え方
			れます。 また、泊高校や宜野湾通信高校に通う為に、父は北部に残り、母と子供だけ、中南部に引越している為、現住所が中南部となり、北部在住者にカウントされていない場合もあるかと思えます（こちらは調べてないのであくまで予想ですが…）。	
19	P.27 3行目	「その泊高等学校に、新たに全日制課程を設置し、」とあるが、いまでも定時制、通信制、支援センターで少ない教室、狭い運動場を調整して使用している。そこへ全日制の単位制が入ってくる。全日制の単位制は選択科目が多数開講されると思われ現教室では対応できない。 現在、全日制普通科の単位制は那覇地区の真和志高校のみで行われている。中退者の多い地区等への全日制の単位制を多様な学びの享受に向けた学校づくりとして再編・設置を考えて欲しい。	現施設（教室数・運動場・進路指導室・保健室・実習室等）では無理です。	ご意見は、今後の参考とさせていただきます。
20	P.27 図14内(24・25行目)	「課程間併修で自分に合った時間割を作成(上限単位数などの制限あり)」の「上限単位数などの制限」はどの程度のものなのかが不明なため、どの程度の効果が見込めるか分からない	上限単位数などの制限を明記して欲しい	課程間併修や他の高校での学修、大学・専修学校等での学修など、学校外における学修等に対する単位認定は、36単位が上限となっており(学校教育法施行規則第99条)、それぞれの上限単位数については、多様な学びに対応できるよう、生徒の実情を踏まえながら検討してまいります。
21	P.27 図14内(28～32行目)	教室や体育館などの増設が必要	全日制の学習時間帯(9:00頃～15:30頃)と定時制の学習時間帯(13:40頃～20:30頃)と重なっている為	ご意見は、今後の参考とさせていただきます。
22	P.27 図14内(28～32行目)	「日中働きながら、仕事後に高校に通う」という生徒のニーズにあった時間帯を設定	13:40～授業が始まることによって、「働きながら通う」ことが出来なくなると懸念される為	泊高校の改編については、単位制高校の特色を活かし、生徒が自分の学習スタイルに合わせて時間割を作成できるなど、多様な学びへの対応を図ることとしております。 学習時間帯については、多様な学びに対応できるよう、生徒の実情を踏まえながら検討してまいります。

No.	該当箇所	ご意見	理由	ご意見に対する考え方
23	P. 28 12行目	「特別支援学校教員免許状を有する教員の配置」とあるが、それは特別支援学校となるのではないか	特別支援学校との違いが不明	高等学校に特別支援学校教員免許状を有する教員を配置し、支援を要する生徒への対応を図ってまいります。
24	P. 29 1行目	是非、那覇地区以外の全日制の高校を「高等学校における多様な学びの在り方研究モデル校」に指定し、その成果や課題等を踏まえ、単位制高校を全県的に拡充してもらいたい。	今回の編成整備計画では全日制の単位制高校についていきなり27頁の図14：泊高等学校改編後のイメージに出ていて、どの様に話し合われてこの図に入ったのかがあやふやである。	ご意見は、今後の参考とさせていただきます。
25	P. 30	今回の県立高等学校編成整備計画の30ページへ追加をしていただきたい。	今回の県立高等学校編成整備計画は、沖縄の次世代を担う人材育成と結びついていなければならない。その基本的な考えとなるのが、新たな振興計画になると考える。その振興計画において基本施策となる「3希望と活力にあふれる豊かな島を目指して」の「(5) 科学技術イノベーションの創出と次世代を担う持続可能な産業の振興」においては、OISTや琉球大学、高専などとの連携が謳われており、その中にてバイオ・医療関連産業等の人材育成に取り組むと書かれているが、その施策を補完する意味でも、今回の県立高等学校編成整備計画に、県におけるバイオ・医療関連産業の人材育成についてもしっかりと明記していただきたい。 また、既存の専門学科等の見直しだけでなく、普通科校の見直しについても積極的に検討していく旨の記載も求めたい。 ※人材育成をOISTや琉球大学、高専など国だけの機関に任せるのではなく、県としても人材の需要がある(可能性がある)分野については、人材育成に関わるとの意思表示をお願いしたい。	人材需要の高まりが見込まれる分野については、関連する専門学科等の設置を検討することとしており、原文のとおりといたします。 また、普通科については、P. 31に記載しており、原文のとおりといたします。
26	P. 35 20、25、37行目 P. 39 1、5、21、26行目	調査対象は県民全体ではなく、「3年生以外の県立高等学校保護者」のみである。これをアンケート対象の「県民」と表現するのは間違いであり、資料のねつ造である。私立高校の保護者はもちろん、高校生の保護者ではない県民を、すべて対象にしていないアンケートを、県	中央教育審議会の平成28年12月21日「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」の「社会科、地理歴史科、公民科の改善の基本方針」には以下のようにある。	調査目的や調査対象等については、P. 35に記載しております。

No.	該当箇所	ご意見	理由	ご意見に対する考え方
		<p>民を対象としたアンケートとすることは不当である。</p> <p>35 頁の「県民」の範囲を見ずに、39 頁を見ると、図 18・図 19 が「県民」の意向であると意図的な誤解に誘導している。公文書における資料の提供の仕方として不適當で、許されるものではない。</p> <p>「県民」の部分を正確に「3 年生以外の県立高等学校保護者」としてほしい。</p>	<p>「○ 授業において、新聞や公的機関が発行する資料等を一層活用すること。」</p> <p>公的機関が発行する資料として、児童生徒に恥ずかしくない資料を作成しなければならない。</p>	
27	P. 39（第 5 期編成整備計画（現計画））	<p>39 頁の定時制課程を三部制にする計画について、個人として意見を申し上げます。</p> <p>本文では、効果は記載されていますが、懸念される問題点が挙げられていませんので、現状の那覇工業高校定時制の話をしながらか問題点を挙げたいと思います。</p> <p>午前部・昼間部を作ることでも教室の確保が難しくなります。現在でも、定時制は全日制の帰りの SHR 終了後、30 分後には 1 校時の授業が始まります。</p> <p>機械科・電気科の実習室はもちろんのこと普通教室も使用しています。次年度からは、0 校時に通級の授業も導入される予定であり、全日制と定時制の時間差が非常に近くなり、全日制は資格試験対策・コンテスト対策・部活動など全てにおいて支障をきたす可能性が出てきます。</p> <p>さらに、午前部・昼間部を作ることでも制服・私服の生徒が混ざり、校則も差が出るという問題点も出てきます。</p> <p>定時制は、三年前の 198 名の在籍数から現在は 116 名にまで減少しています。</p> <p>その中でも 30 名以上の生徒が休学し、休学延長期間が三年間を超えて、退学をするという生徒も多く見てきました。</p> <p>休学する生徒の多くはアルバイトに力を入れすぎて、学校に行くメリットが見いだせない状況が見られます。個人差はありますが、月に 20 万円以上収入のある生徒もいます。</p>		<p>社会の変化に伴い、定時制高校の存在意義が変化しているため、ニーズに合わせ、生徒が自分の望む学習形態を選択できる学校、学び直しもできる学校として、定時制高校を再編する必要があると考えております。</p>

No.	該当箇所	ご意見	理由	ご意見に対する考え方
		<p>登校する生徒の中にも、定時制に来た理由を聞くと勉強はしたくないけれど親が高校には行きなさい・中学校の先生から定時制なら合格できるという理由で何となく来ている生徒も多く目にします。</p> <p>三部制でいつでも単位が取得できる状態にしても、アルバイトである程度の給料をもらおうと休学するという流れが出来、そのまま退学になる可能性も十分にあります。</p> <p>また、定時制を受験する生徒の大半が勉強はしたくないけれど、高校卒業資格は欲しいという生徒が大半を占めるので、三部制にしたからといってこの一番の問題点が改善されるというイメージがどうしても湧いてきません。</p> <p>去年も意見として述べましたが、私の考えは定時制を全日制と同じ校舎にせず、違う場所に職業訓練校のような建物を建てた方が全日制を気にすることなく授業が出来ると思っています。</p> <p>また、3分の2以上授業に出席すれば単位をもらえるという考えで、もの作りにまったく興味の無い生徒が多い状況があるので、新しく定時制の学校を作るのであれば、実習に特化した学校にしていきたいと思えます。</p> <p>本当に、もの作りで将来頑張っていきたいと思えるような雰囲気が専門系の高校には必要不可欠になると思っています。</p> <p>普通教科の場合は、現在、通信教育という手段があるので、毎日学校に行かなくても大丈夫な手段を考えるなど、選択肢は増えていくと思えます。</p> <p>定時制イコール夜間という考えを改める次期に来ているとは思いますが、高校中退率を減らすために、定時制を三部制にするという考えだけでは、工業にまったく興味もないのに、中学校の先生から定時制なら行けるぞ、と勧</p>		

No.	該当箇所	ご意見	理由	ご意見に対する考え方
		<p>められて受験し、アルバイトにはまり休学をして、結局、辞めざるをえない状況に陥る生徒達の姿が頭に浮かんできます。</p> <p>中退率解消も大事なことです。技術を学ぶ意欲がなければ、中学卒業後に仕事をして、高校の資格が取りたいと自分で気づいたときに受験する流れが本人のためになると考えます。</p> <p>定時制という概念自体を考える時が来ているような気がしてなりません。</p>		

※個人情報に関わる部分については省略させていただきます。